博士論文の要旨及び審査結果の要旨

氏　　名	MAO　Jiuyan
学　　位	博　士（文学）
学位記番号	新大院博（文）第５１号
学位授与の日付	平成２８年　３月２３日
学位授与の要件	学位規則第４条第１項該当
博士論文名	中国浙江省舟山群島布袋木偶戯研究
論文審査委員	主　査　橋谷　英子　　教授
	副　査　池田　哲夫　　教授
	副　査　飯島　康夫　　准教授
	副　査　中本　真人　　准教授
	副　査　広川　佐保　　准教授

博士論文の要旨

本論文は、中国浙江省舟山群島で今も上演される伝統指遣い人形芝居(布袋木偶戯)について、その歴史と舟山の人々の暮しとのかかわりについて、現地での芸人や関係者への聞き取り調査と「档案（個人履歴）」資料の調査から明らかにしたものである。

論文の構成は以下のとおりである。

序章

第1節　中国木偶戯の種類

第2節　先行研究と参考文献について

第3節　研究経過と調査の概要

第1章 調査地の概要

第1節　地域概要

第2節　舟山の寺廟・祠堂と島民の信仰

第3節　廟会と廟会戯

第2章　舟山木偶戯について

第1節　杖頭木偶戯の「下弄上」

第2節　舟山布袋木偶戯の特徴

第3章　解放前の上演実態―木偶芸人へのインタビューによる―

第1節　侯恵義の話

第2節　鄭明祥の話

第4章　舟山布袋木偶戯の変遷（解放後）

第1節　芸能の集団化に向かう道―東昇木偶劇団の結成―

第2節　集団化制度下の東昇木偶劇団―芸人講習会と所得分配制度について―

第３節　文革時期の舟山布袋木偶戯
第４節　改革開放後の舟山布袋木偶戯
第５章　舟山布袋木偶戯伝承の現在
第１節　現在活動している戯班
第２節　最近十数年間の上演状況
第３節　願解き―（還）願戯―
第４節　神の誕生日―廟（会）戯―
第５節　婚礼―猪羊戯、開面戯―
第６節　子供の誕生祝い―満月戯―
第７節　祖先祭祀―祖堂戯―
第８節　老人の誕生日―寿戯―
第９節　棟上げ式―上梁戯（竪屋戯）―
第 10 節　その他
終章

序章では、中国木偶戯の歴史と種類、先行研究について述べる。第 1 章では、調査地の舟山群島の概況を述べ、次に木偶戯の上演場所である寺廟や、島での祭祀活動、廟の祭りである廟会について述べる。舟山は、島という地理的条件のためか、大陸各地より、伝統的な信仰活動がよく保存されており、文化大革命時期の寺廟の破壊活動も、他地域ほど徹底しなかったので、文革後の廟の活動復活も比較的早かった。第２章では、舟山木偶戯の歴史と特徴を論じる。舟山の木偶戯には、もともと布袋木偶戯のほかに「下弄上」と呼ばれる棒遣い木偶戯もあったが、「下弄上」は人民共和国成立前後に滅びたこと、「下弄上」が果たしていた祭祀活動としての上演は布袋木偶戯に引き継がれたことなどを論じる。さらに現在の舟山布袋木偶戯の一座や舞台、上演について、芸人個々への聞き取りに基づく詳細な調査結果を示す。第３章では、人民共和国成立以前の状況について、農業地域の定海区出身の侯恵義(1927 - 2014)と漁業地域の普陀区出身の鄭明祥（1929 - 2014）という舟山を代表する二人の老芸人への聞き取り調査を行った。特に鄭明祥については、現在舟山を代表する木偶戯芸人である侯雅飛の師匠にも当たる優れた技術と経験を持つ芸人でありながら、共和国成立以前、国民党の将校に楽器を教えたことがある、などの経歴を問題にされて、改革開放が叫ばれた 80 年代になるまでは、公的には一人前の芸人として扱われず、その経歴は埋もれたままであった。このような鄭明祥に初めて注目し、何日にもわたる聞き取り調査を行った結果、これまで全く知られていなかった沈家門という大漁港での 50 年代以前の漁業と木偶戯上演の関係、以前の島民の暮しの中での木偶戯上演の実態などについて明らかにした。二人とも一昨年相前後して故人となり、生前に基本情報を文字資料として残した意義は大きい。第４章では人民共和国成立後の 30 年間の舟山木偶戯の歴史について、政治に翻弄され、集団化から上演の全面禁止に至る過程を、主に「档案」資料の解読により明らかにする。本来、個人営業で勝手に上演活動を行ってきた芸人に対して、登録を義務付け、芸人講習会の名目で、政治学習を強制していく過程を、当時、木偶劇

劇団の事務担当者が整理保存していた档案資料が存在することを見つけだし、丁寧に読み解いている。闇から闇に葬り去られる歴史の一端を明らかにした点からも評価できる。第５章では、上演目的により、①願解き、②神の誕生日―廟戯、③婚礼―猪羊戯、開面戯、④子の誕生祝―満月戯など 8 節に分けて、現在、島民の生活の中に生きる木偶戯の状況を、現地調査による多くの写真も添えて明らかにした。現在、木偶戯を芸能として楽しむ状況は、ほとんど失われている。にもかかわらず、結婚前夜祭では、まるまる一頭の豚や羊を供えて祖先や土地の神々に人形芝居を奉納したり、子どもの満一か月の祝いに人形芝居を奉納することが、流行になっている現状を、現地調査に基づいて報告し、人形芝居存続への危惧を述べている。

中国では、舟山群島布袋木偶戯は、非物質文化遺産に登録され、保護活動もはじまっているが、これまでの歴史をたどる地道な研究、個々の芸人に即した調査などは、いまだ全く行われていない。このような状況の中、現在活動するすべての木偶戯芸人にインタビューして、全体像を概観し、50 年代以前の活動状況から現在までの歴史的変遷をたどった本研究は、舟山木偶戯についての最初の本格的研究として大いに評価できる。

審査結果の要旨

以上のように本論文は、舟山木偶戯の歴史と現在の状況を、聞き取り調査と文献資料の発掘、精査を通じて詳細に分析して、これまで知られていなかった舟山木偶戯の伝承の現在について、様々な面から明らかにした。舟山群島の木偶戯は、直接には、対岸の寧波から伝わったと言われるが、寧波などには、現在その痕跡すら残っていない。舟山の伝統布袋木偶戯は、孤立する島という地理的条件にも恵まれて、古い姿を今に残す貴重な芸能であるが、これまでほとんど顧みられず、記録も研究もなかった。加えて舟山方言のために、舟山出身者でなければ、到底このように詳細な聞き取り調査は行えなかった。他の人では為しえなかった数々の発見をもたらした舟山木偶戯に関する最初の民俗誌的研究として、優れた論文であると言える。本論文は民俗誌に関わるものなので、博士（文学）が適当と判断した。

以上のことから、本審査委員会は、全員一致で、本論文が博士（文学）の学位を授与するにふさわしいものであると判断した。